

漆山小学校

明治6年創立の馬堀学校と明治7年創立の漆山校。その後、昭和23年に馬堀小学校と漆山小学校が合併して「漆山小学校」が誕生しました。「馬堀」と「漆山」という二つの地区は、各々が古くからの歴史や特色をもつ地域です。地域のお宝でもある田邊茂さんとお宝を探る学習を重ねてきました。

〔馬堀地区〕

「馬堀用水」は、馬堀に生まれた名主 田辺小兵衛俊重氏により、江戸時代の1639年（寛永16年）着工、1644年（正保元年）に完成しました。当時の馬堀村は用排水の便が悪く旱水害が多かったため、小兵衛氏が治水のため幕府に直訴し、私財を投げ打って大用水路開発に取り組み、完成させました。おかげで、馬堀地区は今でも豊かな越後平野の一角を占める米作りのでんな地区です。

地域の先生 田邊 茂さん

地域の歴史や伝説に大変詳しい、正に地域のお宝です。御自分で描かれた見事な紙芝居や地図を基に、馬堀の先人や、様々な伝説について語ってくださいませ。地域探検のガイドもしてくださりました。



馬堀の首塚「長恩院」

長恩院の堂守の田辺光栄さんから教えていただきました。「馬堀の首塚」の話にある馬堀用水を開発し、その後、30歳で自刃した（役人に首を切られたという説もある）義人田辺小兵衛さんの首を、長恩院がお祀りしているそうです。



馬堀用水入口



● 子どもの声 ●

土地を調べて、機械を使わずに土地の高さを利用して水が流れるようにした小兵衛さんの工夫は、すごいです。今も用水は使われているから、ありがたいです。4年に1度の長恩院のとうろう祭りを、ぜひ見てみたいです。

いろんな反対があったのに、村人のために、自分のお金を使い、自分の命と引きかえに、「馬堀用水」を作った田辺小兵衛さんは、本当にすごい人だと思います。

「漆山」には伝説がいっぱい！

〔漆山地区〕

漆山には小高い岡のような所があったと言われていて、1394年（応永元年）に、この岡に京の都から漆岡 弾正（うるまだんじょう）という家族がこの地を治めにやってきました。小さな城を築き、土地の人たちと力を合わせ、開発を進めていったと言われていて、その漆岡弾正の「漆」と言う字と、岡を「山」とたどって、「漆山」という地名が付けられたと伝えられています。また、岡のような所に、漆（うるし）の木がたくさんあったことが名前のいわれとも伝えられています。



漆山の伝説 昔の地図 (田邊 茂氏 作)



昭和の中頃まで、白根や加茂方面から参拝に行く方達が通る街道が漆山でした。宿屋、遊技場（パチンコ屋や映画館）などのいろいろなお店があり、賑わっていました。映画館が2つもあるくらい大変栄えていたのです。

今の漆山五の丁と六の丁の境に、田んぼにして十数枚以上の大きな「赤池」という池がありました。今は埋めてしまいい残っていません。



赤池伝説 (紙芝居は田邊 茂氏 作)



1053年頃、黒鳥の兵衛と加茂の次郎義綱とが争いを起こしました。この争いに勝った加茂の次郎義綱が、漆山の大地で血の着いた刀を洗ったところ、たちまち池の水が赤い色に変わったことから、人々はこの池を「赤池」と呼ぶようになったという伝説です。その頃から、1日に3回、水の色が変わる不思議な池となったということです。

五の丁の佐藤理容店辺りが赤池の真ん中辺り。昔は木を組んだ上に家が建っていたということです。



● 子どもの声 ●

赤池の北側の深い方に住む白い大蛇と、南側の大亀が「この池の主は俺だ！」と時々、大げんかをしたため、池が荒れて大変だったという伝説には迫力があります。ぜひ聞きにきてほしいです。

赤池には、竜、なまず、へび、かっぱが住んでいたそうです。竜はお寺にいて、人間に化けて緑の服を着ているそうです。昔を伝えられる人が本当に少なくなった今、子どもたちに地域のお宝をつないでいてほしいです。

● 田邊茂さんや、地域の方の声 ●

漆山の赤池は、鏡湖のような湖(沼)であったと言われていて、洪水や日照りに苦しんだ昔の人の生活から生まれたであろうたくさんの方の伝説が残っています。また、参道で栄えた街道でもありました。昔を伝えられる人が本当に少なくなった今、子どもたちに地域のお宝をつないでいてほしいです。